

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

活性化計画名	佐呂間地区活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
佐呂間町	015521	1	H22～H25	H23
活性化計画の区域				
北海道常呂郡佐呂間町佐呂間地区				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率 (%) B/A	備考
定住人口の確保	1.03	-9.57	-929.1	
地域産物の販売量の増加	2.94	-3.12	-106.1	

(コメント)

- ・ 転出人口は減少したものの、転入人口の減少が大きく未達成となった。しかし農業就業者数においては目標の9人に対し33人と目標を大きく上回った。
- ・ 個々の個体乳量は伸びたが、計画目標以上に離農者がいたため未達成となった

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
乾燥調製貯蔵施設	土地造成、調査設計費、飼料調整棟1棟、飼料貯蔵施設31基、サイレージ取出機2台、フォークリフト1台、圧縮梱包設備2台、飼料タンク17基、飼料混合機2台、各付属装置			佐呂間町農業協同組合
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
佐呂間町農業協同組合	H23	H23	H24.8.1	
事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
高生産性農業用機械施設	自走モアコン1台、堆肥散布機1台、尿散布機1台			佐呂間町農業協同組合
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
佐呂間町農業協同組合	H23	H23	H24.6.14	
事業の効果				
<ul style="list-style-type: none"> ・ TMRセンター参加者の乳量増加が、地域全体の乳量増産の底上げとなった。 ・ 労働力軽減及び飼養管理に専念できたことにより、個体乳量が伸びた。 				

3 総合評価

(コメント)

- ・ フリーストール牛舎（150頭規模）の規模拡大が促進された。
- ・ TMRセンター施設において、新規雇用が図られた。

4 第三者の意見

(コメント)

○乾燥調製貯蔵施設

計画期間内に生乳出荷乳量実績が目標を下回ったことについて、出荷頭数の減少と1頭当たり乳量の伸び悩みがある。佐呂間町の酪農は家族経営が多く、出荷戸数の減少は経営主や家族の病気、けがや死亡、T P P等の農業情勢に起因する高齢者の経営断念によるところが多い。また、自然災害(大雪含む)による施設被害も要因となった。1頭当たり乳量の伸び悩みは、平成23年及び24年の夏季の高温による暑熱ストレスの発生と繁殖成績の悪化、飼料用とうもろこしの平成23年から25年にかけての「すす紋病」の発生により原料品質が悪化したことによる。

本事業により、利用農家での労働力に余裕が生まれたことで新規投資による頭数規模拡大が進み、経産牛頭数を出荷戸数で割り返した平成25年の1戸当たり経産牛頭数実績は53.5頭で、同時点での目標値に達した。

今後の地域の生乳出荷乳量は、暑熱対策機器の設置台数増加が図られていること、飼料用とうもろこしにおいて「すす紋病抵抗性品種」の作付が拡大していることから維持向上が期待される。

○高生産性農業用機械施設

自走モアコンの導入と乾燥調製貯蔵施設の整備により、事業実施前に比べ牧草収穫効率が1.3倍となり、短期大量調整体系が実現している。また堆肥散布機並びに尿散布機の導入により地域の施肥作業の効率化と、尿散布機はサイレージ廃汁の牧草地への施肥作業にも活用されている。

【 記入要領 】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村の活性化に関連する効果)を幅広く記入すること。

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

活性化計画名	佐呂間地区活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
佐呂間町	015521	2	H22～H25	H22～23
活性化計画の区域				
北海道常呂郡佐呂間町佐呂間地区				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率 (%) B/A	備考
地域産物の販売量の増加	19.03	14.77	77.6	

(コメント)

平成23年産より新品種「きたほなみ」に全面切替れ、現行品種「ホクシン」の約20%増収に伴い、秋の長雨・天候不順により雪腐防除が十分に実施することができなかった圃場もありましたが、販売量は概ね目標達成しました。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
乾燥調製貯蔵施設	基礎工事、荷受施設整備1基、乾燥機2基、貯留設備5基、サイロ設備4基、各付帯草地			佐呂間町農業協同組合
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
佐呂間町農業協同組合	H23	H23	H23	
事業の効果				
各集団施設の乾燥施設の老朽化や、施設等に係る人員不足も予想されることから、JA施設集約一元化を図り、労働力不足の解消、品質の向上、施設維持管理費の合理化及び作付面積の拡大し経営の安定化が図られた。				

3 総合評価

(コメント)

貯蔵能力不足や、各集団施設等に係る人員不足も解消され、JA施設集約一元化が図られ、作付面積の拡大と経営の安定化も図られたものと判断する。

4 第三者の意見

(コメント)

平成23年にきたほなみに全面切り替えられ、販売量増加が期待されていたが、発熟前半の少雨傾向や葉枯れ症状の発生により販売量は目標を大きく下回った。平成24年以降は栽培技術の平準化により収量向上が図られている。平成24年は目標販売量を確保し、平成25年は高温少雨傾向で穂数及び発熟期間は少なく目標をやや下回った。

施設の一元化により、旧施設に関する維持管理費の削減や人員の効率化が図られた。

【 記入要領 】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村の活性化に関連する効果)を幅広く記入すること。